



OIS 6年エジプト調べの発表。後ろには書き初めを展示。



読書のすすめのディスプレイ。奥は SIS10 年保健の授業中。



奥は OIS 高校理科の授業中。手前は空き時間の生徒。

のファクトブックもたくさんあります。そこで、日本で育てて SIS 7年生で初めて英語を始めた一般生徒も、まずは夏休みの宿題で、1冊本物の英語の絵本を借りて読む、という宿題から始まり、8年生の春学期からは、毎週100ページくらいは読むように宿題が出て、OISに小学校があるために存在する易しい英語図書を活用しています。

逆に、日本語をあまり勉強する機会もないまま外国で暮らし、日本に帰国してきた生徒は、全体に日本語の読み書きの機会が少なかったため、国語で読書課題が出て、かなり困難に直面しますが、少しやさしめの日本語で書かれた本も蔵書にあるため、各自の言語レベルに合わせて、本を選びやすくなっています。日本語の場合、振り仮名が振ってある本かどうか選書の際に気をつけている部分です。口頭では普通に使っている言葉でも漢字で書かれていると分からないという生徒もあり、振り仮名があれば、理解が可能になることもあって、漢字の力をつけるきっかけにもなるからです。

英語が母国語と言ってよいような生徒の場合、SISでの普段の授業は英語・音楽・美術・体育以外は、おおよそ日本語で授業が行われますが、高校生の一部の授業では、OISでのシェイクスピア劇などの英文学やIB History・MUNなどの高いレベルの英語での授業も選択でき、英語の授業の内容も美術史・心理学・バイリンガリズム・絵本の創作などかなり難しく高度な言語能力が必要となる授業も多いです。そしてそうした授業で

は、図書館にある読み物や資料、インターネットの情報、特に難しい雑誌論文なども使って、リサーチをしてレポートにまとめ、プレゼンをするのが普通なのです。そのニーズに合うようさまざまな印刷資料(図書・雑誌・新聞)に加え、最近は、インターネット上の有料データベースも日英ともに導入していて、質の高い情報を入手する手段を提示しています。

実際のところ、14学年もある幅の広い生徒のニーズにこたえるのはなかなか容易なことではなく、常に自転車操業の状態です。たとえば、新しく赴任された先生からの「8年生むきの世界の住宅建築についてのリサーチに使える本：家の作りと機能と気候風土の関連が調べられるもの」というリクエストとか、日々刻々と変わる世界情勢や生徒各自の海外体験など、またはその時々話題・流行の反映した、個々の生徒の選ぶりサーチのテーマになりそうな資料で、中高生でもわかりやすい言語で書かれたものを、探し続ける日々となっています。

こうした資料、特に図書は、ただタイトルだけの情報で一朝一夕に買えるものではなく、日々コツコツと出版情報に目を光らせてつつ、本当に使えるものを収集していく必要があり、そのためには、資料の情報と同時にSOIS構成員の生徒や先生方の本当のニーズ把握にもアンテナを立てている必要があります。そうした意味では、司書教諭である私が、総合科の科目を担当する中で、各教科の先生方とチームで教えたり、高校での編入生を中心とした生徒に好きなテーマでリサーチをさせて、一緒に文献を探すのは、なかなか骨の折れることでもあります。毎年変化していく状況を把握するために、とても役に立っているのです。

青山 比呂乃 (あおやま ひろの)

関西学院 千里国際中等部・高等部 総合科 / 司書教諭

千里国際学園創立当初からのメンバー。国際基督教大学卒。大学時代のバイリンガル環境経験以外に留学などの経験はない。日本の小中高ではほとんど見られないリサーチスキル教育の必要性を医学系大学図書館勤務時代に痛感。Co-workerであるアメリカ・オーストラリア・カナダの司書教諭やOIS教諭の授業での図書館の使い方を学びつつ、学園の中心にとレイアウトされていた図書館をSISの理想とする教育を実現するために役立つものとして育ててきた。またリサーチスキル教育の機会を各教科教員との連携の中で模索してきた結果、2005年度から総合科主任となっている。司書教諭としては日本語資料を担当し、SISの中高生にリサーチスキルを中心とした授業を行う他、OIS小学生のJSLクラスの為に、紙芝居や絵本の読み聞かせ、ブックトークなども行っている。

関西学院 千里国際中等部・高等部
〒652-0032 大阪府茨貫面市小野原西 4-4-16
TEL : 072-727-5070 FAX : 072-727-5055
HP : www.senri.ed.jp E-mail : admissions@senri.ed.jp



玄関を入ると、目の前に広がる図書館。まさに、千里国際のシンボルであり、活動の中心です。異なった言語・文化で育ってきた幼稚園から高校生までの想像を超える多様性に富んだ子ども達が、日常的に活動の場である図書館。素晴らしいけど、大変ですね。